

まんまるはーと月形町



旬の新鮮情報

# 月形町

## 年末年始号



### 12月のこよみ

—— (大) 師走 (しわす) ——  
すべてのことを「為果す」月です

- 23日【天皇誕生日】
- 31日【年越し】

### 1月のこよみ

—— (大) 睦月 (むつき) ——  
むつきあう、つましくするの意味で、すべてのものが気持ちを寄せ合って新しい年を迎える月です。

- 1日【元 旦】年賀・初詣
- 5日【小 寒】寒気がだんだん強くなる
- 7日【七 草】七草を入れたお粥を食べる
- 8日【成人式】
- 11日【鏡開き】お供えした鏡モチを割って食べる
- 20日【大 寒】ひどく寒いとき

### 12月の行事

- 18日 ・農事組合長会議
- 19日～26日 ・定期監査
- 26日 ・第11回理事会

### 2007年1月の行事予定

- 6日 ・役職員新年交礼会
- 11日～12日・内部審査
- 16日 ・農事組合長会議





# 新年のご挨拶

代表理事組合長

柴田 悟

新年明けましておめでとうございます。  
組合員の皆様には、ご家族お揃いで新年を  
お迎えられ心よりお慶び申し上げます。

日頃よりJAの事業運営に対しご支援ご協力を賜りお礼申し上げます。

や輸入増加等の影響により価格浮揚に繋がらず厳しい環境となっております。

昨年本町は、過去に例のない融雪の遅れと五月後半からの低温・日照不足により出来秋の作柄を心配したところですが、七月後半から好天に恵まれ農作物全般で生育が回復し平年並となっております。水稲に於いては全国の作況指数が「やや不良」のなか本道は「やや良」となり二年続きの豊作となりました。本町に於いても春先の気象状況から見ると好結果となりましたが製品率、低蛋白率等で残念ながら前年割れとなりました。米を含め農産物総じて消費の減少

さて今年度からは、既にご案内のように品目横断的経営安定対策が導入されます。意欲と能力のある担い手に対象を限定した施策であり品目ごとの支援施策から対象品目全体(経営全体)の所得施策へ移行となります。昨年秋から秋小麦を中心に必要な事務手続きを進めておりますが今年四月から大豆等を中心にして事務手続きが必要となりますのでご協力お願いします。また、同時に米政策改革が見直しとなり農業者・農業団体が主役となる需給調整システムに

移行します。生産者の売れる米作りへの取組みや販売努力、転作への協力があって道産米が高い評価を受けておりますが、昨年は全国的に作柄が不作でありながら過剰作付けにより需給見通しの数量とほぼ均衡となったことにより、価格に反映されていないのが実態であります。需給と価格の安定を資するには、生産者・農業団体が生産調整の実効性確保に取り組むことが不可欠と考えます。十九年産米の生産数量目標が道から示されますが、本町においては生産者の努力評価に伴い作付面積の増加が見込まれますので面積確保に対しご理解とご協力をお願いします。

三JAの合併状況ですが昨年九月に合併検討委員会を設立し現在専門部会で作業を進めております。懇談会等で情勢報告をさせていただきますのでよろしくお願いします。

農業を取り巻く環境は、日豪FTA・EPA交渉の行方など先行き不安要因は多々あります

がJAとしての役割を果たすべく役員員一体となって努力して参りますのでご協力をお願いします。

組合員各位のご健勝と豊稔の出来秋を祈念しまして新年の挨拶と致します。



- 代表理事組合長 柴田 悟
- 副組合長 東出 幸男
- 理事 石川 寛
- 理事 本居 哲夫
- 理事 土田 寿幸
- 理事 明田 修一
- 代表監事 山本 博幸
- 代表監事 楠 順一
- 監事 与佐岡 登
- 監事 宮島 将彰
- 員外監事 村瀬 昇
- 使用人兼務理事 参事 佐藤 良幸
- 使用人兼務理事 金融部長 佐藤 良幸



# 新年にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 宮田 勇

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先の天候不順で、収穫期の作柄を心配しておりましたが、その後の好天により地域差はあるものの全体的には総じて良好に推移しました。特に米の作況指数は一〇五と昨年引き続き豊作となりました。しかし、十月以降本道を襲った低気圧、竜巻・突風などにより一部地域において農地や施設に大きな被害が発生いたしました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて農業・農村・JAを取り巻く環境は、WTO農業交渉が先送りとなっている中で、政府は日豪FTA・EPA交渉に入

る方針を固めました。日豪交渉では、本道の主要農畜産物の多くが競合しており、仮に関税が撤廃されることになれば、本道農業に壊滅的な打撃を与えることは明白であり、予断をゆるさない状況にあります。

JAグループ北海道といたしましては、今後とも米麦、牛肉、乳製品、砂糖など重要品目の関税撤廃の例外化の確保にむけて引き続き経済・商工・消費者団体など関係団体との連携を強化し、粘り強い運動を継続してまいり所存であります。

次に、品目横断的所得安定対策につきましては、すでに小麦で加入申請が進んでおり、本年からの移行に支障が生じないよ

う万全を期してまいりたいと存じます。また、新エネルギーを目指すバイオエタノールにつきましては、十九年度から実証プラントをホクレン清水工場内に建設を開始し、二十一年度操業をめざしてまいりたいと存じます。

また昨年は規制改革・民間開放推進会議による「信用・共済事業の分離・分割」「独占禁止法の適用除外」などJA組織の存続にかかわる問題が提起されておりあります。引き続きJAに対する道民の理解を深める広報対策を強めてまいりたいと存じます。

さて昨年は三年に一度開催される「第二十五回JA北海道大会」が開催されました。向こう三カ年における北海道農業・JAが取り組む指針であり、北海道農業が日本の食料基地としてさらにステップアップを図るため、食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すとともに、JA経

営では自己責任に基づく経営の健全化を図り、JA合併を中心に強靱な経営基盤を確立することが必要であります。

これまでの社会はひたすら物質的豊かさを追い求めてきました。その結果、経済効率、企業優先の社会となり資源や環境の破壊をもたらしてきました。しかし環境や資源、安全などが重視されるようになり農業、JAに対する見方も随分変わってきました。競争から共生の社会へ時代は変化しています。いまこそ「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念を全員が意識し「共生の世紀づくり」にまい進しようではありませんか。JAグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組んでまいります。

最後に、本年は災害がなく豊穰の出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

十一月十七日、月形花き生産組合（阿部憲二組合長）は平成十八年度の出荷反省会と市場との意見交換会を、はな工房にて生産者六十名の出席をもって行いました。

挨拶の中で阿部組合長は「春先の、低温により出荷量が伸び悩んだ影響が、夏場に集中出荷となる要因をもたらし、霜の影響もあって出荷量は、昨年より若干低調な量となった。平均単価は、前年対比で上昇した結果となったが、昨年の実績が良い年では無かった事もあって、喜べる結果ではない。本年度の結果を踏まえ次年度の生産・出荷体制に繋げたい」と話しました。



## 月形町 南瓜生産組合反省会



十一月二十四日、月形町南瓜生産組合（澤田 瞬一組合長）は、平成十八年度出荷反省会を、はな工房にて生産者三十四名の出席をもって行いました。

挨拶の中で澤田組合長は「本年度は、天候不良等の影響で二週間程度の遅れがあり、着荷不良も一部見受けられたが、平均単価については、前年よりも上昇し、生産者各位・市場関係者のご尽力による成果である。この実績を来年度に繋げたいと話しました。しかしながら、一部の産地でポジティブリスト制度違反がでた事もあり、農薬の使用に当たっては、十分気をつけて欲しい」と話しました。

十二月一日、月形町トマト研究会（黒宮勝美会長）は平成十八年度出荷反省会を月形温泉ホテルにて生産者九戸の出席をもって行いました。

挨拶の中で黒宮会長は「本年は、春先の低温により地温が上昇せず、生育が心配されたが、心配はよそに昨年の実績を大きく上回る良い成果となった。一部十月の低気圧による強風の影響で出荷が出来ない事もあったが、生産者各位の努力によって、出荷量・販売額ともに前年を大きく上回った。次年度に向けて、高品質なトマト生産に心がけていきたい」と話しました。

## 月形町トマト研究会反省会



## 第25回JA北海道大会開催 ～共に創る「北海道農業とJAの新時代」～

11月21日、札幌市において第25回JA北海道大会が開催され、大会決議、特別決議を行い組合員とともに新たな時代に積極果敢に挑戦する道農業とJAを創っていくことを決めました。

### 「大会宣言」

本日、全道各地からJAグループ北海道の代表者が結集のうえ第25回JA北海道大会を開催し、北海道農業の振興とJAグループ北海道の組織・事業機能強化に向けたグループ戦略を決定した。

農政の大転換期を迎える中、JA運動の主人公である組合員の営農と生活の維持向上と消費者の支持と信頼の獲得に向けて、北海道農業のステップアップと活力あるJAづくりを強力に推進することが求められている。われわれはJAグループ北海道の総意に基づき、本日、決議した「新たな時代に向けた北海道農業のステップアップ」に関する決議、並びに「変革の波を乗り越える活力あるJAづくり」に関する決議、さらに「JAグループ北海道への結集に関する特別決議」「農政意思結集に関する特別決議」の着実な実践に向けて、組合員並びにJAグループ北海道の役職員の英知を結集し邁進することとする。

今回の大会も前回に引き続き「実践の大会」と位置付けし、決議事項についてはJA・中央会・各連合会がそれぞれの立場に応じて達成目標を設定し実践に取り組むこととする。

## お知らせ



### 「食と農から広げよういのちの政！ 農と日本の再生計画」

#### 農と食の納得できるビジョンと

#### 壮大なロマンが間違いなくここにある！

- 目次 第1章 「いのち」を育む「食」を届ける「農」は日本の礎  
第2章 国際化の荒波の中での日本の「農」を守る  
第3章 将来の「食」と「農」の担い手を育てるために  
第4章 地域とJAと「共に生きる」

四六判・上製・208頁 定価1,785円(税込) 家の光協会刊

#### (著者) 山田 としお

1946年生まれ

1969年早稲田大学政経学部卒業後、全国農業協同組合中央会入会、農畜産部米穀課長・組織部組織課長・組織経営対策部長・農業対策部長を経て1996年中常務理事に就任、1999年より2006年まで専務理事を務める。

#### 山田 としお5つの主張

- ・ 生命をはぐくむ安全で安心な「食」とどけます！
- ・ 「食」と「農」と「いのち」を担う女性の参画をすすめます！
- ・ 国際化の荒波のなかでも日本の「食」と「農」と「緑」を守ります！
- ・ 誰もが安心して暮らせる緑豊かで美しい「農山」村をつくります
- ・ 将来の「食」と「農」と「緑」を担う生産者を育成します。

好評発売中!!



# WTO・EPA つぼの壺

## ● アジアの国々の農業者とともに～農協間協力の取り組み～ ●

JAグループでは、現在進められている東アジア諸国とのEPA(経済連携協定)交渉に際して、協定がお互いの国の農業者にとって等しく有益なものとなるよう、自由化と協力のバランスの確保を訴えてきました。今回はこの協力の一環として実現した農協間協力の取り組みについてご紹介いたします。

JAグループは、現在進められえいるEPA(経済連携協定)交渉において、単なる関税撤廃のみを目指すのではなく、お互いの国の農業者が十分に裨益しないとの観点から、一貫して「自由化と協力のバランスの確保」を求めてきました。特に東アジア諸国とのEPA交渉に際しては「アジアとの共生」の観点からも、「アジアとの共生募金」への取り組みや研修の実施など、様々な農協間協力を検討・実施してきました。こうした農協間協力の一環として、本年10月22日に、JAグループと※アセアン各国の農業者団体との協力により、東京国際フォーラム内に「ASEAN農村ふれあいプラザ」が開設されました。このプラザは、アセアン各国の農業者が生産する特産品の展示や農村情報等の紹介をしています。また同時に、日本・アセアン各国の農業情報や特産品情報などが手軽に検索できるホームページ「日本アセアン農業情報センター」(<http://www.asean-japan-farmersinfo.org>)も開設し、世界に対する幅広い情報発信・交換の強化を目指しています。

※アセアン(東南アジア諸国連合)：ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10ヶ国

### 「ASEAN農村ふれあいプラザ」が東京にオープン



(左上)  
10月22日にオープンした「ASEAN農村ふれあいプラザ」のテープカット

(右上)  
「ASEAN農村ふれあいプラザ」の中の風景

(左下)  
「ASEAN農村ふれあいプラザ」と同時オープンした「日本アセアン農業情報センター」

(<http://www.asean-japan-farmersinfo.org>)

## 水稻

### 平成十八年の反省

#### 一、気象経過と生育

##### (一) 融雪から育苗

も進まなかつたため、融雪期は平年比十日遅い四月十七日となりました。ほ場の乾燥を待っての耕起は平年より四日遅い五月四日から始まり十日には終わりましたが、ほ場乾燥が十分でない地域もありました。

は種は平年より一日早い四月二十一日には種期になり、低温の影響で平年より三日遅い四月二十八日出芽期を迎えました。出芽状態は良好でした。出芽期以降も低温に推移したため草丈が短い傾向でしたが、その後五月三半旬から高温となって移植時には平年より長くなりました。移植時の乾物重は平年をやや上回り、充実度は平年並の苗となりました。

##### (二) 移植から幼穂形成期

移植は全体的に平年より二日遅いペースで進み、五月二十二日から三十一日に行われました。二十四日ころの低温と風の影響を受けたほ場では植え傷みが見られ、それ以外の日に植えたほ場との活着に差が見られました。活着期は移植が遅れたため六月一日と平年比二日遅れで、低温と日照不足の影響から分げつ始めは平年比三日遅れの十二日となりました。

六月は最高気温が総じて低く日照時間は二、四、五半旬で平年の三十から六十%しか日照時間がないために、分げつに適した水温の確保が難しい条件にありました。このため、草丈・葉数・茎数の増加が遅れ、とくに茎数は六月十五日現在で平年の五十九%、七月一日現在で六十四%しか確保できませんでした。七月にな

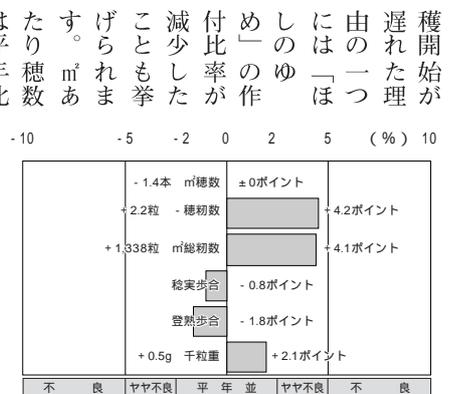
ると最高気温が平年を上回って分げつの増加が加速し、七月十五日には平年並の茎数となりました。幼穂形成期は七月十日で平年比六日遅れ、止葉期は二十六日と六日遅れました。

##### (三) 出穂から成熟

茎数が平年並となった七月十五日から気温が下がりその傾向が七月末まで続いたため、出穂は平年比六日遅れの八月二日から始まりました。しかし、八月三日から十七日まで連続して最高気温三十℃前後の日が続いたため、出穂期八月五日、出穂揃八月八日と出穂期間は平年より一日短い六日間となりました。一方、出穂が早かった地域では、七月の低温傾向の中で出穂始を迎えていたために出穂期間が長引いた例もありました。出穂期以降は晴れの日が多く最低気温が高めに推移したため稔実は平年並で登熟も順調でしたが、籾の黄化進度は鈍かったといえます。九月になっても気温は平年よりやや高く推移し、降雨も一週間おきにありました。九月三半旬に台風が北海道に上陸して風雨となり、後出来傾向にあったほ場では倒伏が発生しました。成熟期は九月一九日と平年比三日遅れですが、出穂期から成熟期までの日数は平年より一日短い四十三日で到達しています。

##### (四) 成熟・収穫

十八年は優勢な親穂の中にも未熟籾が混在していたため、成熟期の玄米では青未熟籾が目立っていました。ちょうど九月は天候が良く気温もやや高めに経過していたので、青未熟籾の登熟を考慮して収穫作業が始まりました。収穫始は平年より九日遅い九月二十一日、収穫期は七日遅い二十六日、収穫終は六日遅い十月三日と収穫作業が大幅に遅れました。収



穫開始が遅れた理由の一つには「ほしのゆめ」の作付比率が減少したことも挙げられます。nあたり穂数は平年比一〇〇%、一穂粒数は平年比一〇四%で総粒数は三万四千粒で一〇四%、登熟歩合は七六%で(図二)、収量は「やや良」となりました。

外観品質は平年並でしたが、精米蛋白質は昨年よりやや高めのものが多くなりました。過繁茂の稲や落水が早過ぎたほ場では心白・腹白が、カメムシの防除タイミングによっては斑点米発生が多くなりました。カメムシ地域により差はありますが平年並からやや少ない発生量でしたが、高温条件下でカメムシの吸汁活動が活発になっていたことが被害の要因と考えられます。

##### 二、十九年度に向けての対策

高品質米の安定確保は、いかに幼穂形成期頃までに有効茎数を確保できるかです。

##### (一) 十分に乾燥できるほ場づくり

計画的な耕起作業と生育促進にはほ場の乾燥が必要です。十八年秋は天候が良く、収穫後に稲わらを撤出したり秋起しのできたほ場が例年より多い傾向がありました。引き続き排水対策に努めてください。

##### (二) 苗は草丈より葉数重視で

育苗ハウスのビニールは早めにかけて地温を高め、均一な出芽に必要な温度を確保してください。また、早生品種の早期異常出穂を避けるため、育苗後半(二・五葉期以降)では二十五℃以上(十八・二十℃程度が最適)の高温管理を避けましょう。

##### (三) 施肥は初期生育重視で

初期生育を確保するためには、初期から肥料吸収が効率的な側条施肥を上手に利用することが重要です。

適応地帯	主な土壌	目標		全層・側条割合	
		収量	収量	全層	側条
岩見沢市 三笠市 月形市	褐色低地土	510	8.0	7.5	3.5 4.0
	グライ土	510	7.5	7.0	3.0 4.0
	泥炭土 台地土	510 480	6.0 7.0	5.5 6.5	1.5 2.5 4.0
美幌市	褐色低地土	540	8.5	8.0	4.5 3.5
	グライ土	540	8.0	7.5	4.0 3.5
	泥炭土 台地土	540 510	6.5 7.5	6.0 7.0	2.5 4.0 3.0

注1) 各土壌 リン酸、加里施肥量: 8~9kg/10a  
注2) 北海道施肥ガイドより加算

##### (表二)

##### (四) 細かな水管理と深水でできる畦

分げつに適した昼間の水温確保のために、天気の良い日は浅水・止め水を実行に実施しましょう。例年、六月末から七月前半にかけては強い低温になる傾向があります。冷害危険期を乗り切るために必要な二十センチの水深が確保できるように、畦の補修や整備を計画的に進めましょう。

##### (五) 基幹的病害虫防除の再確認を

出穂期と出穂期後一週間の基幹防除を守り、前年までの病害虫発生を加味した防除で被害を防ぎましょう。

##### (六) 玄米判定で適期刈り取り

穂揃いを良くして収穫適期の判定をしやすいように、必ず玄米を見てから刈り取り時期を決めましょう。

# 畑作

## 平成十八年度畑作物の 生育概要と反省

### 一、秋まき小麦

#### (一) 生育経過

昨年九月のは種作業は水稲の収穫作業の重複と降雨により、平年より九日遅く終了しましたが、秋の気温が比較的高かったことから越冬前茎数は一〇四五本/㎡と平年の九二%まで回復しました。

しかし、根雪が平年より約二週間速く、積雪期間も岩見沢市で一五四日(平年差十二一日)、美唄市で一六一日(平年差十二八日)と長かったことや、は種時期が時期が遅れたことにより、越冬前の生育量が十分に確保できなかった等により雪腐病が多発し、大きな被害となりました。その後、五月下旬から七月上旬にかけての低温、寡少により、生育が大きく遅れ、成熟期は九日遅れとなりましたが、雪腐病の影響があったほ場では、さらに登熟期が遅れました。また、子実が肥大する時期が、少雨であったため子実の充実が不足し、細麦傾向となりました。穂発芽については、収穫時期に降雨がなかったことから、発芽は見られませんでした。

表1. 秋まき小麦作業期と生育期節

	本 年	平 年	遅速
は種始	9月16日	9月9日	-7
は種期	9月26日	9月19日	-7
は種終	10月6日	9月2日	-9
出芽期	10月3日	9月26日	-7
期生期	4月18日	4月11日	-7
幼形期	5月14日	5月3日	-11
止葉期	6月3日	5月26日	-8
出穂期	6月13日	6月5日	-8
乳熟期	7月7日	6月28日	-9
成熟期	7月25日	7月16日	-9
収穫始	7月28日	7月20日	-7
収穫期	8月2日	7月23日	-7
収穫終	8月7日	7月26日	-9

病害虫の発生は、赤かび病は、降雨が

少なかったことと、防除が適正に行われたことから発生が少なく、DONによる規格外小麦はありませんでした。しかし、規格外小麦はありませんでした。しかし、連作畑(特に三年目以降)では、立枯病の発生が目立ち、収量・品質の低下が見られました。また一部のほ場では、成熟後に赤さび病の発生が見られました。

#### (二) 反省

近年、秋まき小麦の雪腐病の発生が増える傾向にあります。輪作や緑肥の導入と、土壌診断による低pHの改良、排水や雑草対策の徹底と雪腐病の防除を実施しましょう。また、窒素肥料の葉面散布が行われるようになり収量の向上が図られました。蛋白含有率が高くなる傾向にあるので、生育に応じた施肥管理をしましょう。

### 二、春まき小麦

#### (一) 生育経過

は種作業は、降雨のため平年より四日遅れで終了し、その後も気温が低温経過したため出穂期も平年より四日遅れとなりました。収穫始は、秋まき小麦の収穫が遅れたため五日遅れましたが、その後は好天に恵まれたため降雨による穂発芽の発生は見られませんでした。

表2. 春まき小麦作業期と生育期節

	本 年	平 年	遅速
は種始	4月18日	4月19日	+1
は種期	4月28日	4月24日	-4
は種終	5月3日	4月29日	-4
出芽期	5月9日	5月5日	-4
幼形期	6月2日	5月30日	-3
止葉期	6月15日	6月11日	-4
出穂期	6月25日	6月21日	-4
乳熟期	7月14日	7月9日	-5
成熟期	8月5日	7月31日	-5
収穫始	8月9日	8月4日	-5
収穫期	8月12日	8月7日	-5
収穫終	8月15日	8月10日	-5

病害虫の発生は少なく、また降雨が少なかったことから、赤かび病の発生はほ

とんど見られませんでした。

#### (二) 反省

本年の生育は、生育後半に好天に恵まれたことから、収量は、平年並となりましたが、今後も赤かび病防除の徹底と秋まき小麦同様、輪作や緑肥の導入、低pHの改良と雑草対策の徹底を図りましょう。

### 三、大 豆

#### (一) 生育経過

は種作業は、断続的に降雨があったため平年より三日遅く終了しました。その後も降雨があったため出芽期は平年並みとなり、出芽揃も良好でした。五月下旬以降は、気温が平年より低かったことから、生育が停滞しましたが、開花時期が好天に恵まれたことから莢の付きが良く、着莢数は四三四个/㎡と平年より約五%多くなりました。収穫作業は、成熟期が平年より二日遅れ、その後も周期的な降雨により茎水分が下がらず、平年より六日遅く終了しました。

表3. 大豆作業期と生育節(ツルムスメ)

	本 年	平 年	遅速
は種始	5月9日	5月9日	±0
は種期	5月17日	5月15日	-2
は種終	5月26日	5月23日	-3
出芽期	5月27日	5月27日	±0
開花始	7月18日	7月15日	-3
開花期	7月21日	7月18日	-3
成熟期	9月26日	9月24日	-2
収穫始	10月6日	10月6日	±0
収穫期	10月15日	10月13日	-2
収穫終	10月25日	10月19日	-6

病害虫の発生は、生育前半が低温で経過したためアブラムシの発生が少なく、適正な防除が行われたことから、わい化病の発生は少なくなりましたが、八月に気温が上がったことから、ハダニやマメ

シンクイガ等の害虫の発生が多く見られました。また、べと病は、平年より早く発生しましたが、防除が適正に行われ、気温が高温で推移したため発生が被害はありませんでした。

### 四、小 豆

#### (一) 生育経過

は種作業は、断続的な降雨があったため平年より五日遅れて終了しました。七月中旬以降は、高温で推移したため生育は順調に進み、開花時期の天候が良好であったため着莢数は、三六八个/㎡と平年より一五%多くなりました。また、小豆には目立った病害の発生は見られませんでした。ハダニとアブラムシの発生が多く見られ、一部で影響がでました。

表4. 小豆作業期と生育期節

	本 年	平 年	遅速
は種始	5月27日	5月24日	-3
は種期	6月5日	5月29日	-7
は種終	6月8日	6月3日	-5
出芽期	6月16日	6月11日	-5
開花始	7月26日	7月23日	-3
開花期	7月29日	7月26日	-3
成熟期	9月11日	9月7日	-4
収穫始	9月17日	9月8日	-9
収穫期	10月2日	9月16日	-16
収穫終	10月6日	9月21日	-15

収穫作業は、水稲の収穫作業との重複と、葉の落ちが遅かったことから平年より十五日遅く終了しましたが、株の上下で熟期がずれたことによる色ムラや刈り遅れによる品質への影響が出ました。

#### (二) 豆類の反省

本年は、一部のほ場で茎疫病や菌核病の発生が見られました。近年、病害虫の発生が増える傾向にあるので輪作やほ場観察による適期防除と、明暗渠やサブソ

イラー等による排水対策、雑草対策に心がけましょう。

## 野菜

### ◆たまねぎ

#### 一、生育経過

移植作業は、融雪期の遅れにより平年より五日程度遅く始まりましたが、作業は順調に進み、五月上旬には殆どが終了しました。

移植後は、適度な降雨があり活着及び初期生育は良好に進みました。六月は低温・日照不足に経過しましたが、適度な降雨があり生育は順調に進みました。七月上旬～中旬も適度な降雨があり、多照に経過したため球肥大は順調に進みました。早生系品種は、生育が旺盛であったため、倒伏期がやや遅れたものの球肥大は良く、近年になく多収になりました。

中・晩生系品種も、倒伏期が平年より二～三日遅れましたが、肥大は順調に進みました。八月上旬以降は、降雨がなく猛暑が続いたため、枯れ上りがやや早まりましたが、最終的な球肥大は、平年をやや上回る結果になりました。全体の収量としては、平年作をやや上回る結果となりましたが、一部ほ場で、乾腐病の発生が多く、課題も残りました。

#### 二、出荷状況と価格動向

規格内収量は、ほぼ平年並みとなりましたが、早生品種の八月出荷以降、本格出荷にあたる現在も、高値傾向に推移しています。

#### 三、明年に向けての取組み方向

輸入物の増加が懸念される中、今後とも消費者ニーズに対応できる、より安全・安心なたまねぎ生産に努めましょう。安定生産に向けては、次の技術対策が必要です。

- ① 後作緑肥導入による地力対策。
- ② 輪作による乾腐病の軽減。
- ③ 発生状況に応じた病害虫の防除。
- ④ 減農薬栽培の取り組み拡大。

### ◆メロン・すいか

#### 一、生育経過

##### ○メロン

半促成作型(四月上旬～下旬定植)は、定植後の低温により、初期生育は遅れました。着果期は、七～十日遅れで着果も不揃いになりました。一部では着果不良のほ場も見られました。六月上旬～中旬にかけて日照不足により、菌核病の発生が多くなりました。収穫期は、初期生育の遅れが影響し、計画より遅れました。品質はやや小玉傾向になりました。

##### ○すいか

半促成作型(四月上旬～下旬定植)は、定植後の低温により、初期生育は遅れました。着果率が悪つたため、着果目標節位より高い節位に着果させたほ場が多く見られました。六月上旬～中旬にかけて日照不足により菌核病の発生が多くなりました。収穫期は、初期生育の遅れが影響し、計画より遅れました。品質は、やや小玉傾向になりました。

#### 二、明年に向けての取組み方向

信頼される産地を目指すためには、気象条件に左右されず、計画出荷することが重要になります。特に、半促成作型においては、次のような準備と対策が必要になります。

- ① 二重ハウス設置と三重被覆による最低温度の確保。
- ② ハウス内のトンネルは透光性の良いものを使用し、透光率を高める(ビニールの数年使用は透光性を落とす)。

#### ◎菌核病対策

- ① 気象に応じて灌水量を調節したり、換気作業をこまめに行いハウス内を高湿度にしないようにする。
- ② 発生を確認したら速やかに被害部位を除去する。
- ③ 農薬散布は薬液が乾きやすい条件で散布する。

### ◆トマト

#### 一、生育経過

春先の天候不順により、定植前の苗にバラツキが見られました。定植後、低温により障害を受けて、根の張りが弱かったり活着するまでに時間を要したものと見受けられました。六月以降の低温・日照不足で三～四段花房の落花が目立ちました。七～八月の高温でアザミウマ類の発生が増えたり、高温の影響で花粉の稔性が悪く、受粉されないものもありました。全体の収穫量としては、前年よりも約十％程度減少しました。

#### 二、次年に向けての取組み方向

- ① 定植前の土壌診断の実施と適正な施肥対応
- ② 健全な苗を育てるための適正な温度・水管理の徹底。
- ③ 草勢に応じた追肥と水管理の徹底。
- ④ アザミウマの被害軽減にむけた、ハウス外周部のシルバーマルチ設置と粘着盤の設置。
- ⑤ 灰色かび病の発生を軽減するために、開花後の花かす除去や葉先枯れの摘葉処理と下葉処理など耕種的防除の実施。

### ◆アスパラガス

#### 一、生育経過

ハウス半促成栽培では、春芽の初期の

萌芽は順調でしたが、後半は萌芽が鈍り極端に細い若茎が増えました。また、夏芽の萌芽始めは六月の日照不足により遅れ、収量も減少しました。露地慣行栽培は、春先の低温により萌芽が十日～二週間遅れました。夏の高温・乾燥により夏芽の萌芽が遅れ、収穫期間が約一ヶ月と短くなりました。ハウス及び露地立茎栽培では、前年の台風による株の消耗を考慮し、春芽の収穫期間を一週間から十日短縮しました。その結果、春芽は二割程度低収となりましたが、夏芽は前年並みに回復しました。病害虫は、春先にナメクジの被害と斑点病が発生しました。夏期は、アザミウマ類(スリップス)とヨトウムシの発生が多くなりました。

#### 二、出荷状況と価格動向

春芽は、出荷が遅れ量も少なくなりました。価格は、良好に推移したものの出荷額は前年を下回る結果になりました。夏芽の価格は、出荷開始から順調でしたが、八月上旬の低価格により、出荷額はほぼ前年並になりました。

#### 三、次年に向けての取組み方向

- ① アザミウマ類の被害軽減のため近紫外線カットフィルムを利用する。
- ② 斑点病の発生軽減のため整枝により、通気性を改善する。
- ③ 夏季高温対策として、側面を開放した雨よけ型の栽培を検討する。
- ④ 秋に茎葉を刈り倒した場合、次年度の病害虫の発生を抑えるために、茎葉を搬出して処分する。

## 花き

#### 一、主な品目毎の作柄

##### ◆スプレーぎく

早期作型では、低温の影響により地温が十分確保でなか

つたため、活着に時間を要し、初期生育や側枝の発生も不揃いがありました。五月はやや回復したものの六月からの低温寡照や七月下旬の低温等により、生育が遅延しました。彼岸出荷の秋ぎく「精の波」については花芽分化期間中の高温により開花が遅れました。スプレーぎくは輪ぎくと同様な生育経過でありましたが、電照、シェード設備により生育は概ね順調でありました。病害虫では六月にハモグリバエ類の被害が散見されましたが大きな被害にはなりません。七月後半よりアザミウマ類の発生が目立ちました。さび病の発生はごく一部での発生に止まり少なかった。

●対策

- ① 早期作型の地温確保策
- ② 計画的作付
- ③ 電照技術の再確認
- ④ アザミウマ類の発生源除去と防除

◆カーネーション

越年加温栽培作型や早春定植作型では四月の低温により七～十日前後と著しく生育が遅れました。夏秋切り作型である四月～五月定植作型も定植時の地温不足や六月の低温寡照により生育・出荷ともやや遅れ気味であり、作付時期や品種によつては初期の水分の過不足や栄養不足等により莖長の不揃いが発生したところがありました。しかし、分枝、花蕾の発育が比較的順調であり、八月以前の出荷までは品質は概ね良好でした。しかしその後の、秋切り作型では八月からの高温の影響により葉先枯れ症状や短莖化、軟弱化傾向の圃場や一部花蕾数が不足する圃場が見受けられ、生育も前進開花傾向にあった。病害虫では七月下旬の低温時

に黒点病、秋期に斑点病の発生が認められたが例年より少なかったですが、アミウマ類、ハダニ類の被害は例年より多くなりました。

●対策

- ① ベット造成、生育初期の灌水管理
- ② 生育中の分追肥（液肥）施用
- ③ 病害虫防除の徹底

◆スターチス類

宿根系スターチスは初冬と春先の気象条件の影響と思われる株枯れ症状が発生しました。特に「ミステイブルー」では被害が多く、採花に至らない株が多発しました。シヌアータ系では春先の低温により、初期の株養成が不十分なところがあり、抽台も不揃いが目立ちました。また、六月も日照不足であり生育も遅れました。八月月上旬までの出荷・品質は比較的良好でしたが、その後高温の影響により九月にはいると短莖開花や品種によつては花弁の退色が目立ちました。シネンシス系も春先の低温による初期生育の遅れが目立ちましたが、一番花の品質は良好でした。しかし二番花以降、高温の影響により短莖開花が目立ちました。

病害虫ではシヌアータ系の一番花に灰色かび病の発生が見られました。なお一部のシネンシス系品種では株腐病が多発しました。アザミウマ類、ハダニ類の発生は多くなりました。

●対策

- ① 秋期の品質向上対策
- ② アザミウマ類・灰色かび病防除対策

◆トルコギキョウ

早春の定植時では低温、低地温の影響により活着不良や初期生育が停滞や遅延

したところがありました。また、灌水管理によつて生育の不揃いが見られましたが、八月にはいると急激な気温上昇にもない一部、葉先枯れ症状が発生しましたが花色、品質ともに比較的良好でした。しかし、その後、八重咲品種では高温の影響と日中の凋れを繰り返したため茎折れ症状が見られました。九月以降の生育は高温の影響により生育は前進化傾向となり、一部短莖開花となったところがみられました。病害虫ではハモグリバエ類やアザミウマ類が多発しました。

●対策

- ① 土壌改良対策
- ② 地温確保対策、保加温方法の確認
- ③ ベット造成、生育初期のかん水灌漑
- ④ 遮光技術の確認
- ⑤ 病害虫防除の徹底

◆デルフィニウム

シネンシス系では四月の低温・日照不足により生育は遅れました。六月に入ると低温で湿度が高かったため越冬株に灰色かび病が見られました。ペラドンナ系では、融雪が遅れ、生育は遅れながらもおおむね順調でした。シネンシス、ペラドンナ系いずれも六～七月は冷涼に推移し、一番花の花色、品質ともに良好でした。八月に入ると高温の影響と思われる株枯れ症状が多発しました。エラータム系では越冬株率が著しく低下したところがありました。

秋切り株については、夜冷育苗を行っていないところでは、夏の高温により短莖開花や花穂の間伸びが多く見られ、品質が低下しました。病害虫では越冬株でコナダニ類の被害、夏季ではアザミウマ類、ハダニ類の被害が目立ちました。ペラドンナ系ではうどんこ病が目立ちま

した。

●対策

- ① 遮光、換気、かん水技術確認と高温対策
- ② 夜冷育苗の導入
- ③ 花落事故防止
- ④ 病害虫防除徹底

◆ゆり類

越年株では春先の低温等により七～十程度の生育遅れ、一部品種では六月の日照不足等により葉色の薄いものや「まだら症状」、葉先枯れ症状が発生しました。全体的には概ね生育・品質ともに順調でした。特に、七月までのソルボンヌ等の色物品種の発色は良好でした。新植株では八月の高温により葉焼け症状の発生が一部で認められたり、過度な遮光によりプラスチックも多くなりました。また、定植後の水分不足により草丈の短い圃場が認められました。病害虫では六月の低温、多湿、日照不足により葉枯病、夏の高温でアザミウマ類の発生が目立ちました。

●対策

- ① 土壌診断と適正土壌改良
  - ② 良質優良種球の確保
  - ③ プレルーディング技術と遮光技術確認
  - ④ 生育初期の水分管理確認
- 二、土壌診断をしよう
- 花き栽培が連作になり土壌塩基のアンバランスによる生育不良が問題になっていきます。

必ず土壌分析を行い、適正な施肥に努めましょう。

## 理事会だより

### 第十回理事会議案

(十一月二十二日開催)

報告第一号 平成十八年度

十月末現在の組合員動向について

報告第二号 平成十八年度

十月末現在の財務状況について

報告第三号 平成十八年度

十月末現在事業計画・実績対比について

報告第四号 平成十八年度

十月末現在子会社(エコープつきがた)の財務状況について

報告第五号 内部審査結果について

報告第六号 不祥事再発防止策取組状況の報告(十月末)

報告第七号 平成十八年度

第三回(十一月末)購買品現

品棚卸の実施について

報告第八号 J Aバンク基本

方針に基づく平成十八年度上半期経営状況の報告について

報告第九号 資産査定要領及び自己査定マニュアルの一部改正について

報告第十号 平成十八年度 J A月形町役員道内視察研修収支決算報告について

報告第十一号 平成十八年度

米「こめ工房」集荷・調整及び検査入庫状況について

報告第十二号 平成十九年度

新規採用職員内定について

議案第一号 平成十九年度

特別対策組合員の対応方針(案)について

議案第二号 職員就業規則及び準職員就業規則の一部改正について

議案第三号 自動車運転管理

規定の一部改正について

### 第十一回理事会議案

(十二月二十六日開催)

報告第一号 平成十八年度

十一月末現在の組合員動向について

報告第二号 平成十八年度

十一月末現在の財務状況について

報告第三号 平成十八年度

仮決算(十一月末)状況について

報告第四号 年末・年始の業務予定について

報告第五号 内部審査結果について

報告第六号 不祥事再発防止策取組状況の報告(十一月末)について

報告第七号 平成十八年度産米「こめ工房」調整・梱保管実績について

議案第一号 理事に対する目的ローン貸付について

議案第二号 平成十八年度

産地づくり交付金の J A 立替払いについて

議案第三号 平成十七年度産米

「こめ工房」本精算について

議案第四号 平成十八年度産米

「こめ工房」仮精算について

議案第五号 出資金持分譲渡及び減口の承認について

協議案第一号 平成十九年度

事業計画(案)について

## こんにちはは農民連盟 11月・12月

- 11月2日・参議院議員小川氏挨拶回り対応 四役  
 ・四役会議 四役  
 6日・委員長・副委員長研修会 委員長  
 (～10日まで)  
 14日・空知農民連合中央行動 委員長  
 (～15日まで)  
 19日・栗沢町農民協議会記念式典 委員長  
 21日・月形町水田農業推進協議会幹事会 書記次長  
 26日・北準一道政セミナー 常任委員全員  
 27日・中間監査・常任委員会・役員研修旅行(～28日まで) 常任委員11名(研修10名)  
 30日・全道地区・市町村組織委員長会議 委員長
- 12月4日・空知農業・税・青色申告連絡協議会総会 書記長・書記次長  
 ・八単組書記長・書記次長会議 書記長・書記次長  
 8日・第6回拡大執行委員会 四役  
 ・北準一連合後援会役員会 四役  
 10日・青色申告講習会 書記長  
 11日・青色申告講習会 書記次長  
 ・緊急全道農民総決起集会 委員長・副委員長・内藤・山田  
 15日・岩見沢地区農業税務懇話会 委員長・書記長  
 ・南ブロック八単組委員長会議 委員長  
 18日・農事組合長会議 書記長  
 19日・月形町水田農業推進協議会臨時総会 委員長・書記長

**ホクレン**  
**スタンド情報**

ハイオク	145	円/ℓ(税込み)
レギュラー	135	円/ℓ(税込み)
軽油	115	円/ℓ(税込み)
灯油	75	円/ℓ(税込み)

(12月20日現在)

# 振り返って

## 2月 北海道農業士に認定



二月十六日北海道農業士の認定式があり、加藤隆行氏、上葛泰隆氏、鈴木哲也氏、竹内努氏が認定されました。

## 1月 豊かな年にむけて(豊穰祈願式)



一月六日、J A月形町において、平成十八年の豊穰祈願式が開催されました。

## 4月 J A第58回通常総会開催



四月十日、平成十七年度の通常総会が開催され、提案された議案が原案通り可決されました。

## 3月 平成18年度営農懇談会開催



三月八・十四日、各地域毎に改良普及センター普及員により農業のポイントについて説明がありました。

## 6月 月形花き生産組合産地フェア



六月二十六日から三十日の期間、札幌花き園芸内ブースにおいて、「月形の花フェア」を催し、広くPRを行いました。

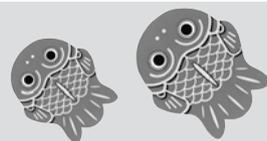
## 5月 小学生へ苗のプレゼント



五月二十六日、月形小学校へ、J Aより四リットルのペットボトルを利用した観察用苗が、学習の為にプレゼントされました。

どうぞ、輝かしい新春をJ Aバンクと共に迎えてみてはいかがでしょうか。みなさまのご来店をお待ち申し上げます。

J A月形町金融部貯金共済課貯金（電話53-3422番）



# 平成18年を

## 8月 月形フェア開催



八月五日・六日の二日間にわたり札幌市のスーパーにおいて「月形フェア」を行い、JAを始め町内関係機関で特産物をPRしました。

## 7月 つきがた夏まつり



七月二十九日・三十日の二日間にわたり「第二十三回つきがた夏まつり」が催され、三十日は、農産物即売会等を行いました。

## 10月 札幌市児童と稲刈り体験



十月二十一日、JA青年部が主催となり、本年も札幌市栄西児童会館児童を月形町に招き稲刈り体験を実施しました。

## 9月 品目横断的経営安定対策等説明会開催



九月八日、品目横断的経営安定対策等の説明会が開かれ、各機関の担当官より対策直前の説明が行われました。

## 12月 農事組合長会議



十二月十八日、農事組合長会議が開催されました。一年間御苦労さまでした。

## 11月 月形産小麦を進呈



十一月二十二日、町内の福祉施設と飲食店の合わせて三箇所へ、月形産「春よ恋」3kgを進呈し、地産地消への取組活動を行いました。

…JA貯金からのお年玉…

平成19年度の新春に、貯金をしませんか？JA貯金では、1月4日、5日を初貯金キャンペーンとして、入金していただきましたお客様へ、粗品を進呈いたします。（数量に限りがございます）

# 謹賀新年

本年も役職員一同よろしくお願い申し上げます



## 代表理事組合長

柴田 悟  
副組合長 東出 幸男  
理事 石川 寛  
理事 本居 哲夫  
理事 土田 寿幸  
理事 明田 修一  
理事 山本 博幸  
代表監事 楠 順一  
監事 与佐岡 登  
員外監事 宮島 将彰  
使用人兼務理事 村瀬 昇  
使用人兼務理事 金融部長 佐藤 良幸

## 〈金融部〉

融資課長(兼)融資係長 吉田 政明  
融資係 横田 竜平  
融資係(融資) 横山 朋枝  
融資係(組勘) 新谷 絵理  
貯金共済課長(兼)貯金共済係長 河原 芳一  
貯金共済係(貯金) 丸山 富雄  
橋本 知恵美  
吉原 梨絵  
貯金共済係(共済) 戸田 侑斗  
山崎 絵理

## 〈管理部〉

管理部長(兼)総務課長(兼) 西野 宏希  
融資審査係長 小野 智子  
総務係長 小野 智子  
総務係(庶務) 真野 真理子  
今野 芙美子  
総務係(出納) 坂口 晶子  
村 上 雅樹  
融資審査係 村上 雅樹  
業務部長 高橋 博基  
営業推進課長 佐藤 隆之  
宮農推進係長 宮崎 尚幸  
堀 愉生江  
宮農推進係 堀 愉生江  
農産販売課長 植松 彰  
農産園芸係長 竹内 滋

## 農産園芸係(花き)

田中 宏和  
真保 佳幸  
山岡 里美  
太田 景子  
辻 裕哉  
農産園芸係(農産) 坂本 恵  
米麦係長 青柳 克彦  
米麦係 稲垣 幸一  
山田 和代  
資材課長 西 和然  
資材課長補佐 佐々木 正美  
資材係長 松川 守  
給油所長 伊藤 圭二  
資材係 佐藤 英直

## 農協青年部

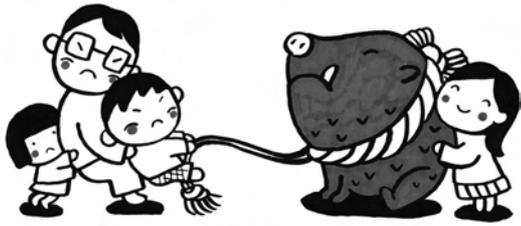
部長 加藤 隆行  
 副部長 渡辺 訓広  
 副部長 阿部 亨  
 理事 相田 晶仁  
 理事 石森 誠  
 理事 黒宮 弘幸  
 代表監事 大山 毅  
 監事 中村 貴広  
 参与 鈴木 哲也

## 農協女性部

部長 大江 孝子  
 副部長 楠 享子  
 代表監事 東出 厚子  
 監事 五十嵐喜代子

## 月形町農民連盟

委員長 渡辺 祥紀  
 副委員長 佐藤 康直  
 書記長 石川 純雄  
 書記次長 津坂 佳史  
 税対委員 佐藤 和夫  
 税対委員 内藤 一康  
 税対委員 田島 豊  
 農政委員 中嶋 雅義  
 農政委員 本居 文彦  
 代表監事 柳 彰憲  
 監事 山田 巖  
 監事 瀬川 政典



## 月形花き生産組合

組合長 阿部 憲二  
 副組合長 金山 均  
 役員 中條 敏幸  
 役員 山本 博幸  
 役員 直 浩亨  
 役員 宮下 勇作  
 役員 内藤 雅徳  
 役員 下坂 和也  
 監事 佐藤 康直  
 監事 高松 春夫

## 月形町 果菜生産出荷組合

組合長 植松 博幸  
 副組合長 池上 基  
 役員 小野 栄治  
 役員 西川 優  
 役員 滝沢 剛  
 監事 残間 清一  
 監事 内藤 康志

## 月形町 南瓜生産組合

組合長 澤田 瞬一  
 副組合長 小野 栄治  
 会 計 伊藤 格  
 監事 山際 栄二  
 監事 残間 清一

## 月形 トマト研究会

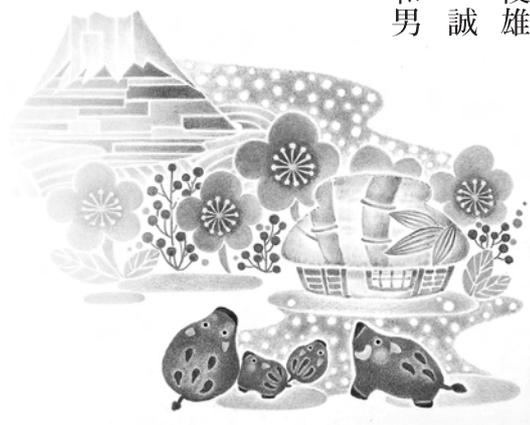
会長 黒宮 勝美  
 副会長 五十嵐俊雄  
 会 計 石森 誠  
 監事 岩村 和男

## 月形町酪農組合

組合長 斧田 定治  
 副組合長 久保 純一  
 監事 田巻 貴範

## 月形町 乳牛検定組合

組合長 斧田 定治  
 副組合長 田巻 貴範  
 監事 久保 純一



# 年末・年始業務

	月 日	業 務 内 容
平成十八年度(年末)	12月29日(金)	一般業務 業務納め 午前8時30分～午後5時15分 貯金店舗 業務納め 窓口 午前9時00分～午後4時00分 ホクレン給油所 平常業務 ATM 午前9時00分～午後6時00分 午前8時00分～午後6時00分
	12月30日(土)	一般業務・貯金店舗 休業 ホクレン給油所 業務納め 午前8時00分～午後6時00分
	12月31日(日)	一般業務・貯金店舗 休業 ホクレン給油所 休業
平成十九年度(年始)	1月1日(月) ～5日(金)	一般業務 休業 (貯金店舗、ホクレン給油所は4日より変動時間により営業)
	1月4日(木) 1月5日(金)	ホクレン給油所 営業 午前8時30分～午後5時00分 休業
	1月4日(木) ～5日(金)	貯金店舗 営業 窓口 午前9時00分～午後3時00分 ATM 午前9時00分～午後5時00分
	1月6日(土)	一般業務 業務始め 午前8時30分～午前11時00分 貯金店舗 休業 ホクレン給油所 営業 午前8時00分～午前11時00分
		豊穰祈願式 午前11時00分 役職員合同新年交礼会 正午
1月7日(日) ～8日(祝)	一般業務・貯金店舗 休業 ホクレン給油所 営業 午前8時00分～午後5時30分	
<b>1月9日(火)以降全業務平常営業</b>		

## エコープ営業時間

平成18年12月

31日(日) 業務納め  
午前9時～午後5時

平成19年1月

1日(日) 休業

2日(火) 業務初め  
午前10時～午後5時

3日(水)～4日(木) 休業

5日(金) 平常業務  
午前9時～午後6時30分



エコープつきがた  
**初売り1月2日**  
午前10時～  
午後5時